婦人と新社會

山田わか主筆

八月號

ルソーと現代の思想家
多數制が眞の民主々義か
フロイドの性慾心理
小學校の社會化
科學的態度の缺乏
寶種族の事實
交換價値と使用價値
本能の跋扈と濱田榮子
ある母の感想
教育社會學

毎月一回一日發行　第拾八號　大正十年八月一日發行



御旅行と三越

……御旅行の品は三越の品
增築落成を致しました三越
は日本一の便利な店となり
ました、……

避暑旅行に海濱に行かる
るにしても、温泉に行か
るるにしても、登山旅行
をさるるにしても……
旅行の必要品は三越に一つ
殘らず取揃へて御座います

◆◆八月定休日◆十日◆二十五日◆一日は棚卸で休業◆◆

東京 三越呉服店

婦人と新社會

八月號

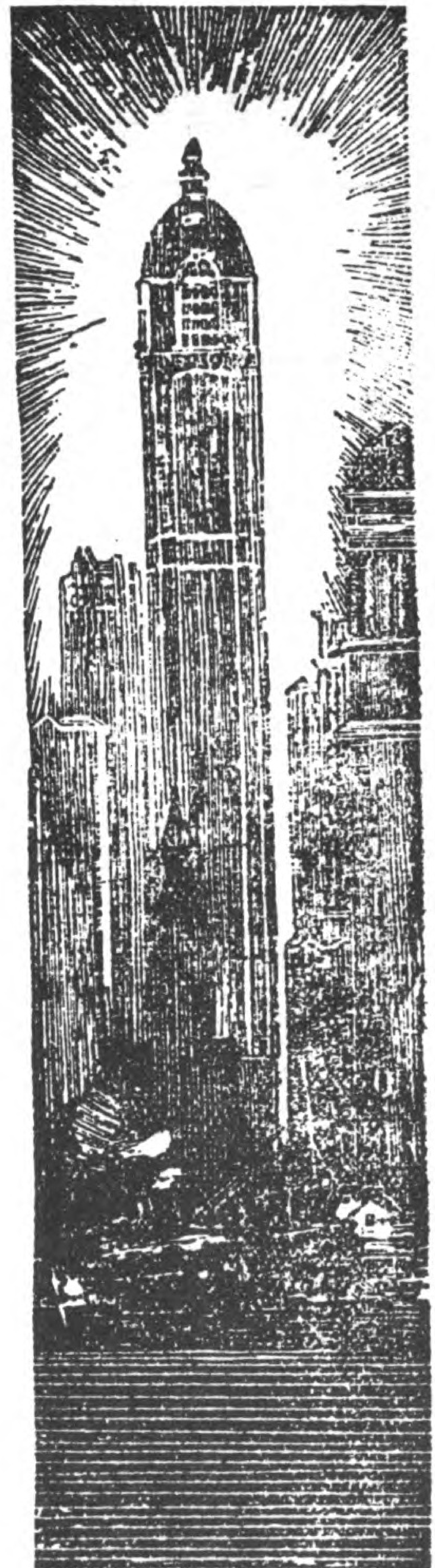
急進的なデモクラシーの精神は社會の單位を家庭に置かずに、個人に置きます。其の結果、親と子を同じ平面の上に立たせます。そして、家族の結束の力を弱くしました。

家庭のうちに、又、子供の上に投げ込まれた其の自由の精神は有益な結果と同じやうに有害な結果をも齎しました。

子供を崇拜する氣風が家庭のうちにも國家にも出來て、そして、裕福な家庭の子供は春の野に咲く花のやうに家の内外を輝かすと云ふやうに貴まれました。と、同時に、さう云ふ風に崇められ、大切にされる子供は大抵早熟で無遠慮な人間になります。

最大限度の自由を與へられながら、其の自由を活用する訓練を缺く結果は往々悲劇の生れとなります。もし、それが女の子である場合には悲劇は一層大きくなります。

急進的なデモクラシーの精神は久しい間の因習的な家庭の習慣や、家長の跋扈から家族のものを解放するには充分でありますけれども、併し、自由に伴ふ重大な責任觀念を子供に注入しようとする空氣が家庭のうちに缺けてゐるために、折角の解放も放縱の養成所になつてしまひます。



ルソーと或る現代思想家

現代思潮の一ッの泉源であり、同時に、婦人問題の種を蒔いたルソーはどんな人であつたか、又、どんな思想の持主であつたかと云ふことは興味ある問題です。實は彼は政治家でもなく、學者でもなく、又、哲學者でもありませんでした。彼は一個の人間であるとして威張つて居たのですけれども、併し、彼は道徳的には多くの缺陥を持つたやんちややでした。

ルソーは確かに天才でありました。彼の心は或る種類の印象を受けることが非常に

說く、そして、文章に堪能でありました。彼の奔放な想像に或る興味が湧いた問題に關しては彼は全く熟して來て、人を魅いらさずには置かない雄辯と、人を誘惑しつゝす言說とを持つて居ました。そして、其の調子は公衆の感情によく投ずることが出來ました。

彼が不意に有名になつたのは、一七五〇年に一論文を公にした時でした。そして、其の主張する處は科學と藝術の進步は道德を墮落させると云ふのでした。其の議論をだん〳〵發達させて行つて、ツイに、あの有名な『人間の不平等の元來と基礎』を書いたのはそれから四年後でした。其の時から政治上社會上の問題が彼の思索の中心となつて、後には『社會契約論』が出で、『エミール』と云ふ敎育論が發表されたのは一七六二年でした。

彼は制限を意味したり、正しい秩序を重んずる制度には絕大な反對を持つてゐました。そして、それは非常に感情が強く自制力の缺けてゐる彼自身の性質から來て居たのです。ですから、彼は合理的な、そして、修養のある人々との平和な交際が不可能

でした。彼の非凡な天才を慕ひ、彼との親密な交際を希望する人は皆失望してしまいました。ルソーが餘まりに我がまゝであつたからです。

彼にはたつた一人の友がありました。その友は非常に粗野な愛嬌などは少しもない一女性でありました。彼女と共に彼は三十年あまりも貧乏な不規則な家庭を持つてゐました。彼自身の生活がさう云ふ風であつたので彼の本能は社會生活の特長であるものを破壞しようとする傾向を持つてゐたのです。自分自身が有益な秩序ある正しい交際をすることが出來なかつたので、ルソーは其れが人間の本質であると斷定してしまつたのです。そして、習慣や法律の制限に反抗したのです。そして、彼の感じ易い性質が其れを非常に力強くしました。つまり、彼は我がまゝと自由とをはきちがへてしまつたのです。

彼に其の泉源を持つ現代思想が自由と放縦とをはきちがへて居るのは、むしろ、當然であるかも知れません。いはゞルソーは貴い野蠻人であつたのです。其の野蠻的な性質は彼の『告白』のうらにうまく描かれてゐます。彼は自分の性質を正直に告白し

てゐます。

處で、十八世紀の佛蘭西はさう云ふ性質のルッソーに强大なる刺戟を與へました。反抗的氣分に燻ってゐた火は、一度、彼が其の當時の宗教や道德や政治や法律に注意を向けるや否や、其等を燒きつくさなければ止まない炎となつてしまいました。何處の國でもさうだつたのですが、歐州大陸のうちで殊に佛蘭西は思想家の嫌ふものが澤山ありました。封建制度の階級別、中世紀からの神學、帝王の神權說など其のうちの最も著しいものでありました。貴族や僧侶の特權も目立つて居ました。

とは云へ、ルッソーが彼の意見を發表した時分には、蒙昧主義や、壓制主義に對する合理哲學の反動が佛蘭西には可なり進んで居ました。方法こそは違つてゐましたがボルテールやモンテスキューやディデローは旣でに反逆の精神を燃して居たのでした。で、ルッソーは始めはディデローと立場を異にしてゐましたが、後にはディデローに同情的に書くようになりました。

社會問題、及び、政治問題に關するルッソーの議論は新しいものではない、つまり、

ルソーの創意になつたものではなく、從來あつたものを誇張したに過ぎません。彼は科學、及び、藝術論に大成功した後に組織的な政治論を書かうとしました。そして、彼の『社會契約論』は其の企てのうちの一斷片であつたのです。

ルソーは彼以前の哲學を、むしろ、うすッぺらに研究した上に彼自身の生地なるジエネバの感化を非常に受けて居ました。ルソーの哲學は其の結果であつたのです。『社會契約論』の表紙に『ジエネバの一市民』と記してあるなどは其の證據です。其のジエネバの市國家と佛蘭西の市政とがルソーの目にはいゝ對照であつたのです。けれども、彼は昔の市國家の歷史を深く研究してはゐなかつたのです。唯、彼は昔の市國家の制度をつゝんだ文學的の口碑を諳んじて居ました。そして、深い事實には觸れて居なかつたのです。ですから、彼自身では、それ迄の哲學が無視してゐた事實を觀察して、そして、歸納したものが彼の哲學だと信じてゐたにも拘らず、それは彼の迷ひであつたのです。尤も、彼の敎育論のうちにはさう云ふ處もありますが、彼の政治論にはさう云ふ處は全然なかつたのです。後に、名を成してから、コルシカとポーランドの間

に起つた混亂のうちに彼は彼の說を具體的にあてはめて見ようとしましたが、其の努力は失敗に終りました。かくして、彼の獨斷な議論を歸納化しようとした努力は、とう〳〵成功しなかつたのであります。

故に、ルツーの政治論は決定的ではないのです。けれども、暗示には富んでゐました。そして、其の暗示の刺戟は今日猶殘つてゐます。彼の想像說や、詭辯や、言葉爭ひはモンテスキユーの眞面目な觀察や公平な議論よりも遙かにより多く十八世紀後半の歐州に受け入れられたのであります。

以來、何處の國にも小さいルツーがウヅ〳〵現れては社會をかき廻はそうとしました。所謂自己免許の文明批評家が澤山あります。けれども、現代思潮の泉源である大ルツー其れ自身が前述のやうなものでありますから、其の流れを汲んだ小ルツーに誤まりの多いのは、むしろ、當然でありませう。私はダンニング教授の政治思想論を讀んで以上の事實を敎へられたまゝに此處に書きました。



多數制が眞の民主々義か

現代の特長は團體生活です。何にもかもが團結の力で押して行かなければ動きがとれないようになつてゐます。それで、何々組合、何々協會と云ふものが後から〳〵設立されます。且つ又、一方から考へるならばどんなに立派な考へが一人の人にあつても、もし、それが多數の人の同意を得ないならば其の考へを實行に移すことが難しいと云ふこともあります。

實に、團結の必要、其の力の有効さは既でに〳〵認められてあつて、團結すると云ふことに付いては誰でもが贊成するのでありますが、併し、本當の意味の團結と云ふことは非常に難しいものです。なぜなら、人が集まつたからと云つて、それが直ちに

團結ではありません。人が集まつたゞけでは仕事は進みません。其處で、私は、今、多數と云ふこと、及び、團結の代表としての民主々義と云ふことに付いて少しく考へて見たいと思ひます。

民主々義は多數の勝利、則ち、多數決の政治だと一般に信じられて居りますが、併し、此の多數決と云ふことは實は民主々義の精神に添ふものでない、則ち、多數決は全部の意志を代表するものではないと思ひます。

なぜなら、全體の四分の三とか三分の二とか云ふのですから、勿論、全部の意志を代表するものではありません。又、滿場一致ですらも全部の意志を現したものでないかも知れません。それなら、何時、全部の意志が完全に現はれ、代表されるかと云ふならばそれは全部の意志が融合して一つになつた時です。其の時の多數決が始めて民主々義の實現です。各人の必要と意志が現れて、其れが合して一つになつた時に其處に民主々義があるのです。

民主々義を淺薄に考へて居る人は申ます。『勞働者達が、一朝、彼等自身の力を自覺

するならば彼等の欲するものは皆自分のものにすることが出來る、なぜなら、勞働階級は數に於てどの階級よりも大きい、そして、其の數の多いと云ふことが最大なる勢力であるから』と。

　これは、勞働者にとつて有利な意見でありますから、勞働者全部は直ちに其の說に共鳴する筈でありますが、實際にはそうでないのは何故でありませうか？　それは、其の意見は眞理を語るものでない、則ち、數によつてのみ人は支配されるものでないと云ふことを彼等が無意識のうちに感じて居るからではないでせうか？

　多數制と云ふことは、又、それ自身の性質によつて其れ自身を破壞してゐます。なぜなら、名は多數制でも事實は必ず少數制にならなければなりません。多數では餘まりに數が多過ぎて仕末がつきません。其のために幹部を造らなければならない、そして、又、幹部長と云ふものを造らなければならない、そんならば、多數制ではなく、むしろ、一人制になつてしまいます。唯、多數の承諾を得た一人政治になつてしまうのであります。

産業に於ける多數制が、今、要望されて居ります。併し、現に存在して居るいくつかの勞働團體に於てさへ、ことはいつも少數の意志によつて決定されて居ります。其の外、凡ての運動に於て必ず首領と云ふものが無ければなりません。普選の運動と云へば尾崎さんと云ふ普選の親玉が出なければならないやうに。

名は多數制でも實質は必ず少數制であつて、そして、其の少數がいつも權力を得よう、投票の數を多く得ようとするので、それが區會、市會、國會、其の他あらゆる會の墮落の原因となつてゐます。成程、多數は力であります。けれども、其の力は其處に集まつた全部の頭數の力ではなく、其のうちの幾部分かによつて構成された共通意志があるからです。多數の力と云ふのは實に其處に集まつた頭數から出來るのではなく其のうちの幾人からか出來上がつた共通意志にあるのです。

政治上、多數を率ひ得ると云ふ事は、一部は勢力の繼承、一部は民衆の心を牽くための宣傳の力、又、もう一部は社會の異つた思想と異つた力とを一つのものに融和させ結合させる力を意味します。そして、其の勢力は其の融和し結合したもの丶多寡に

よるのです。ですから、人爲的な多數黨と云ふのは此の融和、結合のない多數を意味します。此の種類の多數は當てにならない、今、多數でもいつ崩れ出すかも分りません。其處で、人爲的の多數を擁すと云ふことは其れだけに全力を傾けなければならないので、會の目的なる仕事をする餘裕はないと云ふようなことになつてしまいます。從つて、そう云ふ會は利益によつて支配されるようになるのです。多數を集め得たこう云ふ會は身體計り大きくて精神がなく、其のためにに動きがとれなくなると云ふやうなかたちになります。或ひは、又、他の見地からは、多數は暴政になります。暴政でも困るし、そうかと云つて、不活動的な單なる大きな集團でも困るので、いづれにしろ多數制は好ましくないのであります。

それでは、少數の權利を主張するのかと問はれるなら、否と、答へなければなりません。なぜなら、少數の意志だからと云つて、それが完全であると云ふわけはありません。少數は必ず有德だとは定まつてゐません。二十人のうちでは十一人よりも九人の方が正當であると云ふ理由は少しもありません。多數が正しいとする假設論が間違

つてゐると同じように、少數を正しいとする假設論も間違つてゐるのです。正しいと云ふことは少數、多數とは別なものであるのです。

少數制賛成者は申ます。『人類が今其の恩澤を蒙つてゐる過去の大革命は、皆、少數の頭から始まつたもゝである。少數が結局多數に勝つた例はいくらもある。』と。けれども、少數が多數に勝つたように見ゆるのは表面だけであつて、實は、頭數こそ少なくても、其の時の問題を考へて居た人は、多數の中によりも少數の中に却つて多かつたのであります。ですから、私共は、頭數ではなく、どれだけの人が、どの位ひ迄、其の時の問題に力を入れて居るかを見ることが必要であります。

此の意味を説明するために一つの例があります。一人の婦人がありました。彼女は敎育らしい敎育はなかつたのですが、併し、聰明な頭腦を持つてゐました。彼女は自分の一家を扶養するために洗濯を職業としてゐました。けれども、母の會が開かれる度毎に必ず出席しました。そして、實際上の經驗から淺薄な學問を振り廻す人々を片ッぱじから説得してしまいました。其のために其處に集まつた人々は家庭のこと、子

供のこと、衛生、家政、其の外毎日の生活に關する多くの問題を親しく論議し、いつも高尙な標準を得て歸へると云ふことであります。時とすると或る事柄に關して投票が行はれますが、併し、其の投票をする前に實驗の上に立つた權威ある其の洗濯婦人の意見に感化されて全會員の融和、集合意志が其處に出來て居たと云ふことです。つまり、數頭ではたつた一人の婦人ですが併し其の婦人が實際問題に關して握つてゐた眞理は全會員がそれに對して持つてゐた考へと合して猶大きなものとなつて、そして其處に一つの集合意志が出來上がつたのです。

其處で、私共の希望するものは多數でもなく、少數でもなく、多數と少數が融合して其處に出來上がつた共通意志によつてことを處して行きたいと思ひます。ですから此の共通意志は如何にして成立されるものかと云ふことを私共が學んだ時に、其の時に私共は完全な民主々義に達することが出來るのであります。人々が民主々義々々々々と口で云つて居るのでなく、彼等自身が民主々義の材料になつた時に、民主々義は始めて實現するのであります。

婦人はこれから婦人自身の位置を改良するためにも大いに團體の力を利用しなければなりませんが、既成の男子の團體の多くが、單なる多數を以て足れりとして居るような處を模倣することなく、眞の意味の團體、則ち、鞏固な集合意志を生みだすような團體を造りたいと思ひます。

米國一流の社會學者ロッス博士の露國革命に對する批評（一）

レニン一派が露國の憲法制定議會を資本家の走狗なりとして覆してしまつたことは露國人のために最も不幸なことであつた。恐らく、此の憲法制定委員程眞面目な委員は何處の國に於ても曾て得られなかつた程である。もし、レニン一派があゝ云ふ風に此の憲法制定議會を殘酷に裏切らなかつたならば、露國は直ちに眞の民主々義を發達させ、一般人の幸福を計ることが出來たに相違ない。

けれども、一度あの恐しい裏切りをレニン一派が敢へてして以來、露國に於ける政治には道徳上の權威が無くなつてしまつた。そして、露國は國際社會黨と資本家との戰場と化してしまつた。社會黨は國民の幸福を計ると云ふよりも世界を革命の渦中に投げ込まうとするし、資本家は國民の利益よりは、むしろ、自己の財産權を擁護しやうとするし、其の兩者の戰場さなつてしまつたのである。

フロイドの性慾心理

フロイドの心理解剖は一般心理學者のうちには餘まり重きをなさなかつたやうであるが、文學、歷史、傳記、社會學、倫理學、美學、人類學、敎育、及び、宗敎の研究者からは非常な注意を受けたのみならず、其の說を發達させるもの、つまり、其の說の追從者が澤山あつた。確かに、フロイドの說は幼年期、靑年期に對する新しい槪念を世界に與へ、そして人格を研究する上に新しい光りを投げたのである。

フロイドは睡眠、夢、妄想に對する新しい明瞭な說明を與へた。彼は今日迄知られずにゐた普通狀態と病的狀態に共通な心理的構造と過程を明らかにし、因果の法則は最も斷行的な行爲、實に、狂人が幾度も〳〵繰り返へす片語にですらも働いてゐることを說明した。そして、今日迄說明されなかつたヒステリーを可なり深く說明し、其の病的な兆候を知る方法や、幼稚な心の動き方や、過去の多くの神秘を說明する鍵を人類に與へた。其れに加ふるに、多くの精神病を治療する方法、新しい豫防法を工夫し、そして、

人間の性質、傾向、及び、能力を試驗する方法迄をも考へ出してゐる。

彼は、性の本能に關して隨分つき入つた說明をしてゐる。そして、それは、殊に社會學者には非常に參考となる學說である。で、其の學說の特長は、殆んど人間一切の心理狀態を夢と錯誤と妄想と性慾本能で說明し、多くの病氣迄も其れを根據に據そうとした。これは或る程度迄可能なことであらうと思ふ。何故なら、社會を動かす力は性慾と食慾であるから。

けれども、此の學說は何處迄も正直な公平な科學的見地に立つて爲すべき研究であつて好事者や或ひは道樂者や或ひは又或る目的のために道具にするような種類のものではない。從つて、フロイド說は專門家が研究すべき問題であつて、好事家が好奇心を滿足させるために浮薄な心で弄ぶべきものではないのである。

小學校の社會化

社會が進むに從つて、過去の人が蓄積した經驗と口碑は保存され、そして、次の時代に傳へられる。つまり、其れを子供に敎へ込むために或る特別な規定を設けることが必要になつた。社會の一制度として學校は、かくして、存在するやうになつたのである。で、學校は徐々と發達して來て、今日に於ては、未來の幸福に對する責任は如何なる社會制度よりも學校にあることが明らかになつて來た。

で、それが眞理であり、それを疑ふものがないとすれば、そんならば、學校が

完全に社會化されねばならぬと云ふことは論理上當然である。そして、學校を社會化するに付いては次の五ヶ條が必要である。

第一。如何なる社會に於ても、國民敎育を最善に改良し、最新な方法を用ひて實行しようとするならば、此の事業を敎職にある人々、並びに、新時代に委ねゝばならない。則ち、敎育界が社會化されなければならない。

第二。各敎員が、敎員としての職務を有效に果すには社會と共働しなければならない。則ち、敎員が社會化されなければならない。

第三。科目の内容は社會の要求によつて定められねばならないが、其の科目の組織は心理學的であらねばならない。

云ひかへれば、敎育されべき子供の心に合ふようにしなければならない。則ち、敎授科目が社會化されねばならない。

第四。全體の學校組織が最善に改良されなければならない。實際的な方法で管理されなければならない。敎育の最後の言葉は視學官の社會化である。

第五。學校、家庭、其の外の修養團體によつて代表されてゐる制度を取り卷く環境は各個人を完全に敎育すると云ふ目的を置かなければならない。則ち、各兒童を勤勉な生產者、賢い消費者と爲すために、有益な知識、正しい態度、正確な熟練を授け得るような方針を取らねばならない。各生徒は社會化した生產物でなければならず、そして、社

會化した生產物は論理上社會化した學校から出なければならないのである。

要するに、社會化した學校とは、教育界も教師も教授科目も、視學官も兒童の幸福と云ふ祭壇に供へられ、兒童の必要に捧げられた學校である。そして、其の目的は各生徒を社會的に有效な人物と爲すことである。云ひかへれば、他人の權利を尊重し、自己の責任を重んじ、そして、自分よりも不幸な位置にゐる人々に貢獻することを喜びとするやうな人物を造ることである。

> 進化論は事實の少ないことと、議論は多いが駄辯の多過ぎることと、眞の議論の少な過ぎることから苦しめられてゐる。
>
> （メムソン）

ロッス博士の露國革命に對する批評（二）

露國人のために正義と自由を得る唯一の門戸であつた憲法制定議會に對する露國民衆の行爲は、恰も、數年間地牢に閉ぢ込められてゐた囚人の行爲であつた。彼等がダイナマイトをもつて壁を破らうとする際、突然、地が震動して地牢の戸が廣く開いたけれども、頭の鈍くなつた此の囚人は、開かれた門戸を見ずに、猶もダイナマイトをもつて壁を破壞し、其の結果、負傷して半分死んだ體を壁の割れ目からひきづり出したやうなものだ。

もし、始め、戸が開いた時にそれを利用したならば、負傷もせずに自由の天地に出ることが出來たただろうに。



科學的態度の缺乏

最も進歩した社會が婦人に對して最も眞摯であります。そして、最も後れた社會が婦人に對して最も不眞面目であります。我が國に於ては婦人の位置の改善向上の運動が侮るべからざるものとなつては參りましたが、併し、我が社會はまだ婦人運動に對し、婦人に對し本當に眞摯な態度になつて居りません。且つ又、多くの婦人運動者其れ自身のうちには狂信者や野師のような態度の人がなくはありませんので、其のために嘲笑の時期を脫して眞面目な議論の境に這入つたとは、まだ、云へない處があります。云ひかへれば、まだ感情に制せられて居る處が多くて道理の支配を受ける處迄進んで居ないのであります。

其處で、此の婦人運動を尊敬に價する重要な位置に押し進め、婦人の進歩が社

會進歩の重要な要素であることを社會に認めさせるには大いに科學の力を借りなければならないのであります。社會の諸現象を正當な科學上の材料と認めて、そして、婦人運動の如き進歩的な運動の基礎となるべき事實、及び、根本原理を科學的に考究し、世人の誤想を正し、そして、合理的な實行的な流路へ此の運動を導かねばならぬのであります。

婦人運動に限らず凡ての實際的の運動の多くが大底一時の線香花火的であるのは前述の科學的の基礎が薄弱、否、皆無であるからです。凡ての社會上の進歩は人爲的であります。機械が人爲的であるように法律も制度も皆人爲的でありますそして社會上物質上のあらゆる進歩は舊狀態を變更し改良する處にあるのですが、それには科學的の基礎が必要缺くべからざるものであります。

科學の實際的の應用は自然の不利益な狀態を改良するにあるのですから、今日の男女の位置の不平等は生物學の上に、又は他の科學の上に之を正當と證明する何等の基礎はないのでありますが、もし假りに其れがあつたとしても、今日の此の狀態が我々人類に不利である以上は、矢張り、改良しなければならぬものであります。科學の實際的の應用は自然の狀態を改良するにありと今申ました。ですから、科學は凡ての力、社會の力をも支配するものであります。そして、其の目的は地球上に棲息する私共の生活狀態を改善するにあるのです。其れが本當の文明であるのです。其れが凡てゞあります。

今日迄にも文明は粗雜な浪費多き無情な自然界を征服してあらゆる方面に於て人類を稗益して來ました。其れにも拘らず、男女關係のみは昔のまゝの非文明的な不平等な狀態を續けて來ました。これは文明の恥辱、科學的な人々の見るに耐へぬ狀態であります。

人たるの光榮、正義、平等を盛んならしめようとするならば、私共は非文明的な人間に共通な本能や、野蠻人のむら氣の所有者でなく、文明的態度の所有者則ち科學的の態度の所有者にならなければならないのであります。

文明人をもつて任ずる現代人には科學がなくてならないものであることを今申ましたが、其處で、その科學とは一體何を意味するものであるか？　それに付て少し計り考へて見たいと思ひます。科學はものや出來事や又は其の關係を明らかにするものであります。科學的の考察に興味を持つ人は科學の實益と云ふことを聞くのを好みません。それは藝術家が彼の藝術を實益の方面から觀察されるのを好まないと同じです。けれども、科學的の研究にしろ、藝術的の工夫にしろ、それ等は皆進化して行く人間の精神の自然の、そして、必然の表現でありますから、其の理由で藝術にしろ科學にしろ功利主義的に評價することは自由だと思ひます。

併し科學の研究は其れ自身が貴いことで、そして、其れ自身が報酬であるとも云へます。或る學者は申ました。「凡て人間の喜びにはもう澤山と云ふ時がある。

則ち、飽滿を感じる時がある。其の時になるともう其れが喜びでなくなる。けれども、智識の探究にはもう澤山と思ふ時はない。そして、智識に對する慾望と滿足は交はる〳〵に來るもので、そして、それだけで虛僞もなく偶然でもなく、又それだけで旣でに善である。つまり、知識は無限で、もうこれでよいと云ふ處はない。そして、これは科學と實際の知識との關係となつて來る。』と

實に學問は學問それだけで旣でに善であるのですが、併し、其れが實際に應用されることによつて生きて來るのです。且つ又、實に具體的の科學は實際上の知識から成長したものだと云ふことは歷史が證明する處であります。ですから科學が實際上の智識から獨立して理論的な解釋となつても、猶それでも實際上の問題に歸つて行つては其處から新しい刺戟を得て來なければならないのであります。

たとへば、植物學は藥草を集めたり、野菜を作つたり、其の外人間の必要と多く接觸することから進歩して、ツイに、一ッの科學となりました。つまり、我々自身及び我々の子孫のために土地を最も有效に利用しようとする努力がつもりつもつて植物學が出來たのであります。

又、牧畜や漁業や狩獵などが動物學の基礎となりました。ですから、もし、自然科學が自然界に棲息して居る動物の實際の生活と余まりに隔つたものとなるならば此の學問は其の活力と進歩を失つてしまいます。又、動物は我々人類の利益のために無くてならないものだと云ふこ

とによつて動物學の研究に刺戟が與へられないならば動物學は我々の實際生活に何等益のないものとなつてしまいます。

『實行　いつも理論に先き立つてゐた。』と云ふ學者の言葉が云ひ過ぎであるとしても、とにかく、科學と實際生活とはお互ひに反動し合ひ、お互ひに利益を交換し合つて居るものだと云ふことは動かすことの出來ない事實です。要するに科學は實際生活の知識から成長したものでありますから何處迄も其の實際生活と云ふことを忘れてはならないのです。

處で、學者が實際生活を忘れようとする危險を持つて居ると同じように、實際家が科學の力を利用することを知らないと云ふ事實があります。今でこそ、たとへ少數であつても農夫がいくらか科學的知識に興味を持つて來たようでありますが、以前には田畑を耕したり牛馬を養成したりすることと學問とは全然別なものであるように考へて居ましたし、漁夫も赤海を讀むことや魚族學の知識を得ようなどと云ふことは考へても見なかつたのです。併し、一度、科學的知識が自分の職業に非常に有利であることを知つた時に農夫も漁夫も大ひに科學的知識に興味を持つようになりました。そして、それ迄無意識にやつて居たことが有識になり、それが他人に傳へられます。原則が發見されたのも其の過程を經たのであります。

本能から來る知識と、そして、其れを補足する實際上の經驗とは驚くべきものであるには相違ないのですが、併し、其の

本能的知識は其の知識の持主が死ねば同時に消滅してしまうのみならず、又周圍の事情が變ると輪が外れた車のやうに用を爲さなくなつてしまいます。其處で私共は其の實際上の知識を組織して殘して置く必要があるのです。

凡ての科學が、心理學や社會學ですらも具體的な經驗から出立したと云ふことは勿論ですが、數學のやうな全く抽象的な學問ですらも矢張り具體的な經驗から始まつてゐるのです。つまり、歴史の示す處によりますと、數學は人間の手の指や足の指から始まつて居るのであります。そして、幾何學は手や足や腕の大きさから始まつたもの、則ち、昔の人間がものを計るに自分の身體を標準にして計つたことがツイに幾何學の生れとなつたと云ふことです。そして、幾何學とは土地を測量することを意味したのであります。

最も古い埃及の數學の本は今から四千年も前に出來たものだそうですが、それは小屋、金字塔、又は、寺院などを計つたものだそうです。ですから、數學は抽象的な表面に進む前には立體を取り扱つてゐたのであります。これを簡單に云つて見るなら、數學と云ふものは經驗によつてのみ達せられる具體的な物體から始めて、徐々と抽象的に進んで來たのであります。希臘人が具體的の解剖を抽象的の解剖とし、そして、其の解剖の數學が綜合の數學に移つて行つたのであります。

科學は職業の知識から生れたとも云へるものです。ですから、化學者は鍛冶屋であり、植物學者は農夫であり、動物學

者は牧畜者、狩獵家であり、漁夫であり歷史家は所謂詩人であり、辯護士は書記であり、そして、數學者は自分の取扱ふ材料を凡ての職業からとつて來て居ますから、從つて、數學は凡ての學問に關係があるのです。

人間進步の最大條件の一ッは職業と科學を絕へず關係させて置くことでありまず。其の兩方が絕へず片方から知識を供給され補助されて居なければならないのであります。應用化學が實際生活の上に現してゐる效力は其の數から云つても量から云つても莫大なものであります。釀造、石鹼製造、染物などは所謂化學が出來る前からあつたものには相違ありませんが、併し、化學的の刺戟を受けて以來其の數が急に殖へたのみならず其の性質もまるで一變しました。

其の外、鑛山學、電氣化學產業、製鐵の改良、染料の製造、空中の窒素の利用肥料の製造等が發達しました。又、物理學の發達の結果としては、電信、電話、無線電信、電氣動力、飛行機などの出現となり、生物學の研究は食物の改良魚族養成の進步となり、病源の研究は醫學の進步となり、遺傳の研究はメンデル主義其の外のものを通して家畜や植物の改良となりました。其の外、科學が實際生活を改良した方面は無數であつて此處に數へ上げることは出來ない程であります。則ち、人間生活の全部が科學によつて改良されたのであります。

科學の功績は實に莫大なもので今日の文明は此の科學の力で造られたと云つて

も云ひ過ぎではない程でありますが、併し、此處で私共が注意しなければならないことは、實行家は余りに科學の結果に慣れてしまつて其の科學の根本を爲してゐるものを忘れようとする、つまり、其の學問の根が枯れてしまうことに氣付かずに居ると云ふことであります。科學の進歩を計り、そして有效に利用しようとすれば第一に研究に費す時間と入費が必要です。第二に求めて居る結果に到着しようとすれば待つことが必要です。第三に科學は一ッの統一力でありますから、これを進歩に應用しようとするには理論的な基礎が必要であります。ですから、大發見はいつも最も非妥協的な理論の研究から來て居ます。

其處で、今日のように人々が直接な目先きの利益のために學問の精神を忘れようとしてゐる時には、私共は今より四百年も以前にベーコンが言つたことを顧る必要があります。則ち、彼は申しました。『光りを與へると云ふことと、實際上の直接な利益と云ふことゝを區別する必要がある。光りと云ふものは其の光りの無數の用法よりも貴く秀越なものである。」それと同じように、迷信もなく僞りもなく誤解もなく混雜もなく、有りのまゝにものを考へることは其れだけでも發明の全收獲よりも貴いものだ。』と。

科學を單なる實際上の效果によつてのみ價値づけることは余まりに唯物的で科學の眞の進歩を裏切るものであります。一體、理論的科學の價値は研究と云ふこと、つまり、不明なものを明らかにする

と云ふことです。科學の價値をたとへて云ふならば、有徳な人は彼が有益な行爲をしようと思はなくても彼の一擧一動が皆有益であるように、科學其れ自身に價値があるのです。ですから、理論を貴めば貴む程科學の價値が現れるのです。スペンサーは言ひました。

『科學は人生のためであつて、人生が科學のためではない。そして、科學は人生の進歩向上のためである。けれども、人生を狹く考へてはならない。則ち、唯に食物と衣服が人生だと考へてはならない人體は單なる着物ではない。……現代の文明國人にとつては或る程度迄は人生が科學のためであると云へる。……科學をして其の自由なる發達を遂げしむるならば其れは必ず人類の幸福を増進する。つまり、科學は社會化されなければならない。云ひかへれば、科學者は社會に對する忠告者又は教育者であらねばならない其れが科學者の最高なる使命である。』と實に佛蘭西の學者が云つたように知識は先見であり、そして、先見は力であります。

且つ又、科學の實際上の力が余まりに偉大であつたゝめに其の實際上の價値が精神上の價値を壓倒した、つまり、燦然たる科學の力に目が暗んで現代人は精神上の事柄を忘れたと云ふ傾向があるのでありますが、と云つて其れが科學の價値を決して低うしてはゐないのであります。

實に、現代の私共の生活は臺所の隅から、屋根のとつ先きに至る迄科學的であ

ります。處で、私共自身の事になると全く非科學的であります。現代の重大問題である婦人問題が誠に非科學的であることも其處から來て居ります、ですからエレンケイは申ました。「人類の意志は動物界及び植物界に一層高尚なる型(タイプ)を作り出すことに決定的の力を有するものと認められてゐるが、併し、人類自身に關する事柄、例へば人類の型の改良、人類の向上等に關しては、今、猶偶然と云ふことが信じられてゐて、これ等の事柄が成功した場合にも、或ひは又不成功に終つた場合にも皆偶然の結果なりと考へられて居る。」と。又、ラスキンは云つてゐます「我々人間はあらゆるものを造る。我々は木綿を晒す。我々は鋼鐵を堅め、またこれを研磨する。我々は砂糖を精製する我々は陶器を造り、また、書物を印刷する。併しながら、たつた一ッの生きた我々の心靈を改造し、精製し、研磨するといふことは利益の計算書のうちに算入ざれてない。」と。

人間以外のあらゆるものに科學が應用され着々と功績を擧げてゐるのに、人間自身は未開人其のまゝの狀態にあることをエレンケーもラスキンも非難して居るのであります。こう云ふ風に人間其のものを科學的に研究しない結果、つまり、人間自身に對する科學的態度が缺乏して居る結果、あらゆる誤解が釀され、そして、其の誤解が婦人問題の全體の根にも横はつてゐて、婦人問題の宣傳と實行に非常な害を與へました。科學の光りに輝して人間其のものを見るならば男子と女

子は一定不變の法則の下に男子は男子の女子は女子の別々な正しい過程を經て發達して來てゐるのであります、けれども其の科學的の光りを持たないために男女の差別撤廢などと云ふ有害無益な女權論が起つたのであります。

又、社會そのものに對して科學的態度を缺いて居たことも婦人論が誤謬に陷る一ツの原因でありました。

クーレーが、我々の此の社會を計り知ることの出來ない森林に擬へ、其の森林の中を夜間提灯をつけて行く人の群を學者に擬へ、そして、其の學者の提灯が周圍を照し、全體としての社會を照し、人々の足許を明くして人々の取るべき方向を教へるものだ、と云つたこと、又、『學者の其の提灯の光りは時とすると無限に擴つて行つて、そして、だん／＼明るくする面積を大きくして行くが、併し、矢張り、其の先きの方には常に薄暗い處が無限に殘つて居ると云つたこと、及び、ウォードが『自然界に於ける一切のものは、もし、我々が余まり遥かに溯つて行くならば説明が出來なくなる。』と云つたことは本誌三月號の『教育社會學』のうちにも書いて置きましたが、併し、私共が今日私共の取らねばならぬ方向を定めるに付いては其れ程迄深く廣く研究せずもがなであります。學者の提灯が照す範圍内で先づ差し當りは充分であります。併し、一般人は殊に婦人は其の提灯の光りさへも利用しようとしない、其處にいろ／＼の誤謬が起るのであります。

私は科學の力が萬能だとは申ません。

あらゆる點に於て、又、あらゆる關係に於て科學が最善最高だとは思ひません。けれども、實際、科學が人間の生活を急速度に改良し、近代文明を建設したと云ふことは否むことの出來ない事實であります。そして、今日の最も進歩して國民は人類の善のために解決すべき問題は必ず科學の力を待ちます。そして、一度科學が與へた判決は、猶それに一歩進んだ科學の研究によつて反證が擧げられる迄は有效です。

過去に於ては、重大な問題は宗敎家、道德家、又は、法律科などに其の解決を委ねて、そして、其の人達の判斷をもつて國民は滿足してゐました。昔の國民の常識は其れで滿足が出來たのでありますが、今の國民の常識は科學の答へでなければ滿足出來ないようになつて居ます。

私は、科學以外により貴いより美しい、より意味深いものがあることを信じるものでありますが、併し、今日の婦人が、並びに婦人問題がまだ此の科學的の水平線に迄も來て居ないことを悲しむものであります。

それは丁度、私の婦人論は婦人の生活としては家庭婦人が最高であることを主張するのでありますが、併し、一般婦人の狀態は、家庭婦人よりも一段低い位置より重要でない職業婦人の位置迄にも向上して居ない、婦人としても人としても勞働者としても何等のきは立つた能率を現すことの出來ない狀態にあるのと同じであります。そう云ふような狀態でありますから、今日の處では、我々は、殊に婦人は先づ科學的態度を學ぶのが最大急務でありませう。

感情に支配されてゐる境を脫して、道理の支配を受けるようにならなければならない、則ち、科學的の態度にならなければならないのであります。



貴種族の事實

此の春頃、私は二三の機會に於て、家庭婦人を寄生虫と見ることの大きな誤謬、且つ、又、亂暴な說破して置きましたが、今、又、もう一度それに付いて書いて見ようと思ひます。

寄生虫と云へばどなたでも御存じの通り、寄虫です其の寄虫は人間の又は動物の生血を吸つて生存して居るものです。そして、家庭婦人は經濟的價値に換算できない家庭の仕事をしてゐると云ふ理由で、男の生血を吸つて生存して居る寄虫だと云ふ謗りを一種の婦人論者から受けたのであります。そう云ふ婦人論者は家庭婦人と寄虫とを全く同一視して未婚者には「寄生虫となることを避けよ」と忠告し、既婚者には「其の寄生虫の境遇を脫せよ。」とすゝめました。私は、そう云ふ議論を聞かされた最初は、「變だと」思ひました。其の次には「馬鹿な」と憤慨しました。そして、此の頃では余まりに皮相な其の考へ方を、むしろ、滑稽に思つて居ります。寄生虫と云へば、きたない話ですが、虱か蚤です。男は愛する婦人を妻として迎へたいために、彼女の承諾を得るために名譽も財產も生命迄も提供することがあります。けれども、開闢以來、虱や蚤を迎へようとして苦心した人があつたと云ふことを聞いたことがありません。

妻に死なれて歎き悲しみ、時には妻の後を追ふて自殺する男があります。けれども、虱や蚤に死なれて顧

の第一つ話かした人を見たことがありません。もし顔色がいくらか動いたとすれば、それはせい〳〵した氣持ちの表現でありませう。

夫婦仲のいゝ夫は旅行するに妻の同伴を喜びます。けれども、新しい旅に馬や駕を連れて行かうとするものはないでせう。

夫は妻の危險を救ふためにはどんな冒險でも敢へてします。けれども、馬や駕の……こんなことを並べて居れば其の例はいくらでもあつて際限がありませんから、もうよしますが、とにかく、寄生虫に喰ひ付かれてゐる者は其の寄生虫を取り除くことによつて復活したような氣持ちになるに反して、本當の意味の夫婦である夫から妻を離すことは其の夫の生活を暗黒となし、時には殺すことになるのです。

廣い世間には、遊惰な、寄生虫的な、夫の生血を吸ふような惡い妻も無くはないでせう。けれどもそれは例外であつて、一般には妻は夫のために無くてならないものであり、時とすると、夫のためには光りであり命であるものです。ものゝ一個所だけを見て其れが全體であるように思ひ込むのは經驗の足りない青年者の常でありますが、併し、相當の年輩に達して實地の經驗も經て居る筈の婦人論者がいつ迄も同じ淺薄なことを恥かしげもなく高調してゐることは、實際、憐れにも又滑稽であります。

併し、そう云ふ種類の熱心な婦人論者の大獅子吼にも拘らず、健全な常識が賢明な大方の婦人達を導びいて、そして多くの婦人達が人生の常道である結婚生活に入られたことを私は喜ぶものであります。家庭婦人の生活は經濟的價値には換算したくも出來ない程自他の幸福のため有益な仕事をして居るにも拘はらず、淺薄な婦人論者の頭は其處迄考へることが出來ないので、婦人の經濟的獨立などと主張するのでありますが婦人論者達は其の上に、又、思想上の獨立と云ふことを申します。そして、娘は父の、又、妻は夫の考へとは別な考へを持つことを奬勵して居ます。

けれども、一代の大思想家、大詩人であるエマソンは何と云ひましたか、『我々人間に最大必要なものは我々を指導し、我々に適した仕事を我々に爲さしめ能ふ人物である。』と云つて居るではありませんか。つまり、我々には常に指導者が必要であることを教へて居

るのです。そんならば、何と云つた處が事實上、私共婦人よりも優れた力と 社會的の經驗を持つて居る父なり 夫なりの 指導を受けることは有益なことではないでせうか。尤も、父なり夫なりが時代後れの頑迷固陋者であつて育たうとする 私共の智能を 押へつけてしまうような人間あでる場合には別ですが普通、私共の利益と 幸福とを思つて 指導して吳れる場合には、『私は思想的に獨立して行きます。』と云つて、其れを拒む必要は少しもないではありませんか？ 經濟的能力を全く缺いて居る娘に學資を與へて學問させる父、智力的に後れてゐる妻を指導して 智的發達を 計る夫が暴君であるならば、そう云ふ暴君は私共の幸福と進歩のために絕對に必要な暴君であります。

且つ、又、妻が何をしようと、何處へ行かうと、どう云ふ種類の人間と 殊に異性と交際しようと 一向平氣で『あれは女の個人としての自由ですから。』と云つて打ち捨てて置かれるよりも、『そんなことはするなそんな危險な處へは行つて吳れるな、あゝ云ふ人物との交際は止めてお吳れ。』と 云ふ夫が妻を束縛するのであるならば、偏頗した女權主義者でない限り、それは嬉しい束縛に相違ありません。

女性は或る方面に於ての男性の指導、男性との接觸を必要とします。男性は、又、他の方面に於ての女性の指導、女性との接觸を必要とします。あらゆる物體が其の內部に一ッの 化學的要素を缺いて 居れば其の物體は直きに崩れてしまいます。それと同じで、全然男性を排斥した女性、又、全然女性を排斥した男性は幸福な完全な生存を續けることが出來ないのです。婦人が男子の上に及ぼす影響は 彼を馴致するのであり、男子が婦人の上に及ぼす 影響は 彼女を堅實にして行くのであります。

ですから、もし、男性を馴致する女性の力がなかつたならば 此の社會はいつ迄も 野蠻的であつたらうし又、女性を堅實に導く男性の力がなかつたならば此の社會はヒステリックで 瘋癲病院のやうであらうと云ふ話があります。實際今でも男は全く一人で居るならば半野蠻人であるのですが 其れが 女性の感化を受けて強い有益な一個の男子となり、又、女は全く一人で居るならば ヒステリーになつてしまうのですが 男性の感化を受ける事によつて、女性の美點を發揮するこ

とが出來て有益な 一個の婦人となることが 出來るのです。實に、兩性はお互ひに助け合ひ、補ひ合ふことによつてお互ひの特色を發揮し、そして調和ある幸福な生活を營むことが出來るのです。

こう考へて來ますと 女權主義者の云ふ 婦人の經濟上の獨立とか思想上の獨立と 云ふことは 人間の幸福とは 全く正反對の方向に婦人並びに 男子を導かうとするのであります。人道主義が家庭を擁護し、家庭を破壞に導かうとする貧乏、病氣、惡德に對抗し、男、女子供の幸福を計らうとする反して、女權主義は社會に深く〳〵根を張つてゐる家庭から婦人を引き離し、無政府狀態、自己滿足の世界に婦人を浮浪させようとするものであることは前號に も一寸云つて置きました。

此の頃、亞米利加では種族の切り賣りと云ふことを云ひ出しました。それはどう云ふことかと云ふとかうです。淫賣婦が世間から卑しめられ嫌はれるわけは、未來の種族のために 神聖視しなければならない 性の作用を賣物にするからであるが、併し、女權主義者の主張に從つて 婦人が自己の滿足を得るためこ 母性を蹂躙することは 種族の立場からは賣淫と 同罪だと云ふのであります。男子の勞働は文字通りに唯勞働を賣るだけであるけれども、婦人の勞働は大抵の場合、其の性的能力を衰弱させ破壞する、それだけ種族が衰弱させられ破壞させられると云ふのです、ですから婦人に仕拂はれる勞銀は婦人の勞力計りでなく、其の勞働力と一所に種族を買つたのだ、つまり婦人は自分の勞働と一所に種族を賣つて居るのだと云ふのです。

國を賣つたものは 賣國奴として 卑しめられ重い處刑を受けます。自分の身を賣つたものは淫賣婦として卑しめられ嫌はれます。けれども、なぜ、種族を切り賣りするものが見逃がされるかと云ふ議論です。

英國のランカシイアの紡績工場が 或る時 閉まつてゐた處が、嬰兒の死亡率が工場の開いてゐた時の半分になつた、けれども、再び、工場が開いてからは、又以前と 同じ嬰兒の死亡率を出したと 云ふことは有名な事實です。して見たなら、それ等の嬰兒の生命は母の勞働力と共に賣られてしまつたのであります。工場主は母の勞働と共に 子供の體をも買つて しまつたのです。婦人の性的作用の力、母性の作用の力は彼女の勞働力と切り離すことは出來ないのですから。

勞働婦人に付いて許りでなく、智的職業婦人に關しても亦同じことが云へるのです。男子に高い月給が拂はれること、男子の物質的成功は種族を潤すことになりますが、婦人の高い月給、又は、物質的成功は未來の種族を實にとることになるのです。なぜなら、結婚のため、又、結婚に續く母體のため其の高い月給、又は成功した地位を失はうのを厭ふて自然結婚を避けるようになります。すると、それだけ殖へる種族も殖へないことになります。

戰爭が人命を無駄にするのは、唯、戰爭中だけですけれども、婦人が自己滿足の爲めに結婚を避けたり、結婚をしても自分の女性と云ふことを忘れて過度な勞働に從事したりして種族を害すことは四六時中止む時はないのです。

ですから、種族の成長、種族の發達を目的とする大自然の神前に婦人達が召喚されて裁きを受ける時には世間から卑しめられ虐げられてゐる淫賣婦も、個人さしての成功を誇り、世間からも尊敬を受けてゐる獨身婦人も、亦、自分の女性たることを輕んじて過度な勞働に從事し、虚弱な子供を生んだり又は夭折させたりする勞働婦人も皆、同罪でありませう。

又、智力の優れた婦人は結婚しても子供が少ないと云ふことは一般に信じられて居ることですが、其の代りそう云ふ婦人は其の少數の子供を優秀な人物に育て上げることが出來るから、次代の指導者を社會へ提供することになると云ふことも亦普通考へられて居ることです。併し、こう云ふ場合の多くは強壯な子供が少ないから、其の次代の指導者もだん／＼數が少なくなつて、ツイには、絶へてしまうであらうと云ふことも、又、理由なき杞憂ではないと思ひます。

自然よ、我々は汝に取り巻かれ、つつまれてゐる。我々は汝から我々を切り離す力を持たない。

我々は汝のふところに生きて居ながら、汝を知らない。汝は絶へず我々に話をして居るけれども汝は我々に汝の秘密を明かさない。

（ゲーテ）



交換價値と使用價値

私共がいつも聞いてあまり愉快でないことは、内容の伴はない大きな言葉です。國家とか社會とか云ふものが手の先きで自由自在になるかのやうに、改革とか、改造とか、救濟とか云ふ言葉が余まり容易に用ひられてゐることです。

或ひは、又、無產階級とか、民衆とか云ふ言葉を中心にしてもの云はずに、人間の活動の目的であり社會全般の基礎である家庭生活の問題、其の歸着點に付いて論ずることは社會問題とは沒交涉だなどと云つて、社會問題を小說化してゐる人々もあります。けれども人は眞面目に自分の實際生活から出立して、自然に流れ出して來て、社會問題を論じてこそ本當に實際論だと私は考へます。自分にも實行出來ないことを人に强いて、どうして、それが實際に有效な議論でありませう？　で、私は私自身が社會と交涉するやうになつ經驗を一寸跡つけて見て、それから家庭婦人の經濟的價値に付いて御話して見ませう。

私の今の生活は殆んど全く婦人の生活と云ふことを中心に社會上の諸問題に付いて考へることのやうになつて居りますが、こうなりました其の發端は、決して陷れられてゐる同性を救濟するとか、社會をどうするとか云ふやうな大きな考へを持つて始めたのではあり

ませんでした。

實は、私が結婚致しました時には、私の夫は三千何卷と云ふ洋書を持つて居りまして、狹い家の中はどこもかしこも本計りでありますのに私の本と云ふのは英語の讀本の一二册位ひでありました。私の夫は『年をとつてからも生活が淋しくならないやうに、世間が見えるやうに本を讀むことを覺へてお置き。』と私に申しまして暇さへあれば私に文字を敎へて吳れました。

私達の生活は貧乏でありましたけれども、併し、平和でありました。人に頭を下げたり、借金をしてお腹を一杯にするよりも饑じいのを我慢した方がいゝだらうと私の夫は私に敎へました。本當に其の通りですと私は答へました。夫は少しでも私を賢くしよう、高尙な人間にしてやらうとして居ますし、私も亦早く何にかが分るようになつて夫の話相手になるやうにならうとはげんで居りますので家の中はいつも平和で幸福でありました。

其のうちに妹が妊娠中の大きなお腹を抱へて離緣になつたり、友人の妻が赤子を置いて死んで、其の友人が當惑して居たり致しますので、私達は自分達の幸福にひきくらべて、其の妹や友人を捨てて置いてはすまないやうな氣になりました。それで、妹が生んだ子供も友人の子供も引きとつて育てると云ふことになりました。

子供を育てなければならない位置になつて第一に痛切に感じますことは自分の無學と云ふことでした。可愛想な子供達の背たけを伸してやる、つまり、小さい子供にけがをさせないやうに車にも引かれないやうに保護することが出來ても、自分が無學でゐて、どうして子供を賢く導くことが出來ようか、世の中へ出ても虐げられないやうな人間にどうして仕上げてやることが出來やうかと云ふことがヒシ〳〵と私の胸に迫まつて來ました。それで、私は子供をもつてからは一層熱心に勉强しました。そんな風で始終書物に親しんで居りましたものですから、自然、新聞雜誌にも興味をひかれて居りますうちは、所謂一般の婦人論、つまり婦人の個人としての自由とか何とか云ふ理由の下に婦人に家庭を輕視させよう、婦人に家庭を捨てさせようとする議論を讀んで、變なことを云ふものだと思ひました。そして注意して見てゐるうちにそれが大きな誤謬

であることを發見致しまして、不圖、筆をとりました。すると、案外其れに反響があつたりして、ズル〳〵と何時の間にか筆を持つことが今の私の主なる仕事のやうになつてしまいました。

　多くの婦人のうちには普通の婦人とは違つた興味、又、違つた性質をもつた特別な方も勿論ありませうし或ひは又、人となるに付いてはいろ〳〵別な經路を通つて來た方もありませうが、私としては夫があればこそ、子供があればこそ、つまり、家庭を持つて居ればこそ、奬勵もされ、刺戟も受けて努力することが出來ました。私としては世界中のどんなに貴いもの、又は美しいものも平和な家庭には變へられないのです。そして、普通一般の婦人も矢張りそうであらうと信じます。同時に、それが社會の平和、健實な國家の基礎であると信じるのです。であるのに今日迄の婦人論は其の家庭を婦人に捨てさせようとし、子供を母の手から離そうと致しますので、其の議論に反對するのが私の婦人論です。

　お茶が始めて西洋へ行つた時に、お茶の使ひ方を知らない西洋人はお茶を煮たて、其の汁を捨てて茶ガラ計りを食べたと云ふことですが、もし、今日迄の婦人論が實行に移つたなら、此の人生はお茶ガラを食べるやうなことになるだらうと思ひます。

　今日迄の婦人論は、家庭に居る婦人は何にもしてゐない。家庭のうちには仕事がない、全く奴隷の位置に満足して遊んで居ると申しますが、成程、富裕な婦人は何にもしてゐないかも知れません、子供には一人々々に御附きをつけて、其の外に御飯たき、お針、お給仕と云ふやうに多くの雇人を使ふことが出來る婦人こそ何にもしてゐないかも知れません。けれども、そう云ふ婦人が、我が國の三千五百萬の婦人のうちに何人あるでせう。其のうちの大部分の婦人に對して、「あなた方は家庭のうちに遊んでゐる」と云ふのは馬鹿氣たことでありませう。

　家庭の仕事は此の社會上のあらゆる仕事のうちで最重要な仕事であつて人間の活動は皆これを中心にするものであります。教育事業は、家庭だけでは手が届かないから其れを補助するため、産業は各家庭で消費する品物を供給するためであり、其の他あらゆる社會事業は各家庭の便を計り、家庭の安定、向上を目的とす

るものであります。つまり、人間の活動の凡てが愉快な家庭を造らう、立派な子供を造らうとするのが目的です。もう、一度、云ひかへますと、家庭が主で、其の他のあらゆるものは従であります。産業と家庭に付いて申しますなら、凡ての家庭で、炭はいらない、石炭が欲しいと云ふならば炭焼業はあがつたりで石炭業が活氣づいて來ます。家庭で魚肉よりも獸肉が欲しいと申しますならば魚屋があがつたりで肉屋が繁昌致します。木綿物が高いと云ふことが評例になつて總ての家庭が買ふのをひかへれば、木綿の織物業は衰微します。そんならば、消費者である家庭が主人で、産業は家庭の下僕であります。家庭の主婦の頭の動かし方次第で産業は盛んにもなれば、衰へも致します。ですから、婦人が家庭を捨てゝ産業に走ることは主人の位置を捨てゝ下僕の位置に下つて行くことです。

　であるのに、婦人論者は婦人達に其の主人の位置を捨てゝ下僕の位置に行けと敎へました。家庭の仕事は不揃ひ勞働、奴隷の仕事だとして卑しめ、ものを造る仕事のみが價値あるやうに申しました。けれども、家庭の仕事は金錢に見積ることが出來ない程貴いものだと云ふ處に氣が付いてゐませんでした。今日の多くの家庭婦人のうちには實際奴隷のやうになつてゐる婦人もあります。けれど、それは、其の人自身、並びに周圍の人が惡いのて、家庭婦人と言ふ位置が惡いのではありません。

　私共婦人の爲されねばならぬ仕事は澤山ありますが、先づ、差し當りは内部を顧み、家庭と産業、家庭と社會との關係を明らかにして、物價が高くなつた時分には徒らに生活難に付いて愚痴を云つてゐる代りに、肉が法外に高いといふ聲が騰がつたなら、そんなら、暫くの間肉を買ふのをよしませう。といひ、餅菓子の價が馬鹿に騰がつたといふ評判になつたなら、そんなら暫く餅菓子を廢しませうと、各家庭の主婦がいふやうになつて、私共婦人の力で産業界を支配するやうになりたいと思ひます。産業の下僕の代りに自然が婦人に與へた位置、則ち、産業の主人の位置に止まつて其の權威を保つて行きたいと思ひます。

　婦人論者達が、家庭内の仕事は奴隷の仕事で、家の外に出ての仕事が人間らしい仕事であると主張致しますのに反して、私は、此の世の中のあらゆる仕事の中

で家庭内の仕事が最高價値のあるものだと信じるのであります。

婦人の最高な使命は國民の母であると云ふことは暫く置いても、家庭に於ける婦人の經濟的調節は、家庭の外に於ける男子の經濟的價値に優るとも決して劣らないものであります。前にも申しましたやうに、各家庭に於て消費される食物、衣類、家具は大抵主婦の手を通してとゝのへられますから、家庭婦人はものゝ價格を或る程度迄確定させる使命を持つて居ります。ですから、經濟上から見た婦人の使命が二ッあります。それは今申しました消費者と云ふことでそして、もう一ッは使用價値の創造者であります。

家庭婦人は使用價値の創造者であるに反して、家庭の外での仕事は交換價値を造るものです。そして、此の交換價値は直ちに貨幣によつて見積られますから、自然、其の價値は誇張されがちです。これに反して、婦人の創造する使用價値は家庭内で創造され、家庭内で消費されますから、目立ちません。けれども、其の價値は交換價値と同じもの、否、金で買ふことの出來ない貴いものであります。

一例を擧げて見ますならば、看護婦は病人の看護をして一日一圓五十錢なり二圓なりの給料を受け取ります。其の看護婦の仕事には交換價値があるのです。けれども、母が子供の看護をしたり、夫の食事ごしらへをしたり、其の外、朝から晩迄の仕事は交換價値がありません。けれども、使用價値があるものです。そして、其の使用價値は直接に人類の幸福に貢獻するのです。ですから、交換價値以上のもの、即ち、金に代へることの出來ない程、貴いものです。

次の國民を産み育て、學校へ送る準備をし、子供の健康を注意し、夫の便宜を見計らひ、食事ごしらへをし衣類の修繕をし、其の外無數の無くてならない仕事を家庭婦人はしてゐます。もし、これを交換價値に見つもつて見るならば其れは大したものになります。けれども、婦人論者は交換價値には見積ることの出來ない此の使用價値を無價値なものだと宣告しました。一言で申しますなら、一般婦人論者は實體と影との見分けが付かない色盲です。

ですから、婦人論者は婦人が工場に商店に或ひは事務所に雇はれるのを謳歌します。其の生活がどんなに

貧弱で、無價値で、無意義であつても、賃銀のために働いて居ると云ふことが有意義であり、經濟上の獨立であるとか、又は、經濟上の獨立が男子の横暴に對する最善な武器であるとか、男子の目を開く機會であるとか、そうすることが長い間の服從から、則ち、單なる女性としての位置から婦人を解放することであるとか考へて、そして、産業界の競爭の困難なことや、其の職に付いては全く盲目です。そして、受け取る賃銀を經濟的獨立と云ふ實際よりもものを大きく見せる顯微鏡を通して見て喜んでゐます。

賃金をとること、屋外に働くことを謳歌するに急で婦人論者は婦人の賃銀取りの眞の悲慘を見ることが出來ません。勿論、此の傾向は我が國計りでなく、世界至る處の文明國は皆そうです。そして、こうなるに付いてはシユライネル女史の『我々婦人は我々の活動範圍として一切の種類の勞働を要求する。』と云つたこととギルマン夫人の『女性が男性に依頼して生きてゐると云ふことは動物界に於て人間計りである。人間以外の動物の女性は男性に依頼してゐない。其のために人間の女性は動物よりも下等になり、押へつけられて人間としての發達を止められてしまつた。故に、婦人が必要とする唯一のものは經濟上の獨立である。』と云つたことなどが大いに與つて力があるのです。

さう云ふ思想の結果、智力的に最も發達した、倫敦のフエービアン婦人團體は多くの議論を經た後、婦人は獨身婦人であれ、既婚婦人であれ、未亡人であれ、離婚婦人であれ、皆、經濟上の獨立を得なければならないと決議しました。婦人に參政權があつても經濟上の獨立がなければ何にもならないと云ふのです。又、米國の國勢調査によると合衆國に於ては既でに一九一〇年に婦人辯護士が五百五十八人、婦人傳導師が六百八十五人ありました。これによつても、其の外の智的及び體的の勞働婦人の數は押して知るべしであります。

此の狀態を見て、米國一の女子大學ブリンマー大學の校長トーマス女史は申しました。

『もう二三代後には凡ての婦人が皆經濟の獨立を持つようになるだらう。のみならず、男子の方は怠けやすいものであるから、婦人に養はれるやうになるだらうそして其の結果人類の損害は大きなものになるだらう。』と。

併し、今日の勞働婦人の狀態は實に慘憺であります。もし、獨身者であれば誘惑が烈しいし、子持ちならば子供に手が屆かないと云ふやうなわけで。けれども、婦人論者は此の狀態を救ふには賃銀を高くすればよろしい。男子と同等な賃銀が凡てを解決すると云ひます。處で、今日の複雜な產業組織に於ては經營者は經營費をきりつめる目的のために婦人勞働を採用したのです男子勞働よりも安く使へると云ふので婦人勞働が盛んになつたのです。故に、婦人勞働者が男子と同じ待遇同じ賃銀を要求するならば、彼女等は自ら失業と云ふことになります。そんならば、賃銀値上げは決して婦人勞働の解決ではないでせう。

婦人の解放は經濟の方面、則ち、交換價値の方面からでは望みがない、けれども、使用價値の創造者、及びもの丶價値の評價者としての婦人の使命を認めることから出立しなければなりません。

一人のシ丶リア人がボストンにゐる。彼は彼の本國にあつては一日六十錢以上稼いだことがない。けれども、ボストンに來た最初は一日二圓五十錢、十八ヶ月後には一日五圓、或ひはそれ以上とるやうになつた。で、勿論本國に居た時とは比較にならない程衣食住がよくなつてゐる。英語もいくらか讀めるやうになつた。そして彼は自分の生活が全く改善されたことを認めてゐる。處で、彼は自分の宗教はI. W. W. だと云ひ、資本主義は新しい奴隷制度だ金持ちは倒すべきだと云つてゐる。資本家の少ないシシリーに於ては、充分な衣食住も教育も殆んど得られない彼は資本家の多い米國へ來て以來、不充分であつた其等の充分を得、其の上に親兄弟を呼びよせて一家平和に滿足して暮してゐる。それでも、猶彼は資本家を呪つてゐるのだが、一體、勞働者は何を要求するのか？

（ブルックスの『社會秩序に對する勞働者の挑戰』より）



本能の跋扈と濱田榮子

濱田榮子さんの自殺の報道を讀んだ時、又かと云ふ氣持ちがしました。そして、私の目はすぐ遺書の處へ行きました。そして、愛人に宛てた一節に『私は死にます。そして、あなたに申譯をします。』とありましたので、はては、夫婦にならうと云ふかたい約束が實行されないための自殺かと思ひました。處がだん〳〵讀んで行くと二人は既でに同棲してゐました。そして、二人目の子迄姙娠してゐると云ふので何のための自殺か分らなくなりました。申譯がないとは何のことか分らなくなりました。

新聞が云ふやうに眞純な愛であるならば二人は既でに滿足して居る筈であります。又、母親の無理解と云ふことも大分云はれましたが、併し、親の無理解や周圍の壓迫ならば、もし、あつたとしても其れは二人の愛其のものに何の影響もない筈でした。なぜなら、二人は母親の反對や周圍の不贊成には全く無頓着に自分達の好む通りに同棲してゐました。誠に自由な戀愛觀をもつてゐた二人が形式上の結婚の約束をして置いて其れが果されないために榮子さんは死なればならなかつたなどと云ふことはどうしても考へられないことです。形式などを其れ程重んじる人達であるならばあんなにして同棲は出來なかつた筈ですから。

實際、榮子さんは戀愛に關しては全く自由な考へを持つてゐました。しかも、普通の娘なら、また、戀愛

の何であるかを解さない時分から。ですから、榮子さんの死は多くの新聞が云ふやうに戀愛問題の犧牲でもなく、新舊思想の衝突の結果でもなかつた。さう考へて來ると榮子さんが愛人に對して「申譯ない」と云ふのは愛人との間に約束して置いたものは財產ではなかつたかと云ふやうなことになります。

もし、さうなら榮子さんの死は愛人にも輕からざる責任があります。愛人は榮子さんよりは年上であつて榮子さんよりは思慮も熟して居る者ですから、彼に誠意があるならば、二人の行動に贊成しない母親や周圍の人に無理にせがませないやうに 榮子さんをなだめて、二人の愛に滿足して居るやうに努力すべきであつたと思ひます。

其の上に榮子さんは富豪の娘にありがちな自制と云ふことを知らない我がまゝ者であつたやうです。愛人にはつゝかれるし、自分の思ふやうにはならないし板ばさみになつたので、日頃の我がまゝがつのりヒステリーになつた結果、はづみで死ぬやうになつたのではないかと云ふやうにも思へます。

要するに此れは戀愛問題でもなく、新舊の思想問題でもありません。此の悲劇を生むに至つた近因は財產と男の不誠意にあつて、其の遠因は榮子さんを生み育てた家庭にあつたのです。生れ落ちるとから、反省とか自制とか云ふことはミジン程も敎へられずに本能の赴くまゝに彼女は動いて來ました。のさばり放題にのさばることが彼女の本質になつてゐました。處で、もう、さう云ふ風に出來上がつてしまつた彼女を、今、急に矯めようとしましたからたまりません。彼女はポキッと折れてしまいました。

それにつけても考へさせられるのは子供の本能を敎育することを怠つてゐて、そして莫大な財產を殘して置くことの弊害です。一個の人間を、あゝしなければならない、かうしなければならないと云つて壓迫することは出來ても、併しさうすることによつて出來てしまつた人間の本質、つまり、本能を變へることは出來ない、であるから、幼少の頃から、母親の意志の力によつての本能敎育の必要を切に感じるのであります。

（扉の文を併せて讀んで下さい。）

濱田榮子の自殺事件に關しては諸新聞の紙面が隨分

澤山費されました。それに付いて、東京朝日新聞（七月三日）の論說の一節に、

『濱田榮子なる一纖弱なる少年婦女の死か、端なく社會の問題となつて、舊道德がどうの、新思想がどうのと、恰かも社會に於ける大問題なるかの如くに評判されたのは、如何に現代の我社會の人心が膚淺で浮調子で、不完全であるかを立證するに足る。殊に貴重な時間を十日餘りも騷いで、最後に公にされた濱田家の發表なるもので愈々以て御座が醒めざるを得ない。こんな事件は人間の世界で決して珍らしとせぬ。殊に新舊思想の過渡期に於て、其の例は乏しくない。唯、問題の主人が、百萬圓の財產家で、產科婦人科の泰斗たる醫學博士の愛娘だと云ふので、特に著しい印象を世間に與へたに過ぎない。』と云ひ、そして、此の問題は滄海の一粟にも等しいと云つてゐます。

此の問題が滄海の一粟にも等しいと云ふ見解には私も同感です。なぜなら、こう云ふことは、其の事件に直接關係ある人、則ち、自殺者の親とか、兄弟姉妹とか、又は、配偶者と云ふやうな人達にとつてこそ重大事件、つまり、其の人の全生活を覆してしまう程の大きな問題でありますが、併し、社會にとつては、朝日子の云ふやうに『滄海の一粟』であります。殊に、たかが反省と云ふことを少しも知らない我がまゝな娘が自分の思ふやうにことが運ばれないのをぢれてヒステリックになつてはづみで自殺したものを餘まり騷ぐのは實に下らないと私も思つて居ました。

處で、此處で考へて見る必要があるのは、大騷ぎであつたのは、果して朝日子の云ふやうに世間であつたでせうか？　私は、大騷ぎであつたのは、唯、新聞紙であつたらうと考へてゐます。私自身はあの事件の報道を始めて新聞紙上で見た時に、『又か、馬鹿なことを』と思つて其の儘忘れたわけではないが少なくとも念頭を去つてゐました。そして、世間の人の大部分も私と同じやうであつたろうと想像します。そして、此の事件に關しては世間は案外何とも思つて居なかつたにも拘らず、常に、ことあれかしと待ちかまへてゐる新聞が面白半分に大きな見出しを掲げて書き立てゝゐたに過ぎなかつたろうと私は考へます。

自殺者が富豪の娘であること、また、若いと云ふことに新聞記者達が興味をひかれて其れを小說化し、新

聞紙上でお祭り騒ぎをしてゐたに過ぎなかつたらろと私は思つてゐます。實際、世間には結婚のもつれ、財産上の爭ひからの生き死には毎日あります。けれども其れが、富豪でもなく、若い美しい女性でもないならば、大抵は、二三行の三面記事でおしまいになつてしまうが、或ひは全然、新聞の御厄介にならずにすんでしまう。從つて、世間は知らずにすんでしまうのです。ですから、榮子事件は世間が騒いだのではなく、新聞が騒いだのです。

外の問題や出來事を壓倒して、榮子の自殺事件計りが問題であり、事件であろやうに凡ての新聞が紙面の澤山を費してゐたことに對して心あろ人は、皆、不快であつたろうと思います。新聞としての使命を知らない黄色新聞ならいざ知らず、社會の耳目を以て自ら任んずろ、權威あろ社會萬般の報道機關であろ大新聞はチト反省してしかろべきだと思ひます。

其處で、朝日新聞の論説の世間に對すろ警告は、實は、新聞紙自身に對すろ警告であつたと云つても差し支へはないでせう。

新聞紙上には、新聞記者以外の各方面の人の批評やら感想やらが載つてゐました。そして、其のうちで最も私の意を得たものは、七月二日の國民紙上に掲載された鹿子木員信氏と吉屋信子女史のものでした。鹿子木氏は、

『幼けなくて性の慾にその心を破り、若くして財の慾にその身を破れろ可憐なろ少女を、限りなく痛ましく愍ふ。

小さき彼女は、巨大なろ現代の象徴だ。唯だひたすらに、性の慾と財の慾とに支配されろ現代を――現代の日本を、我は、無限の侮蔑と憎惡を以て呪はざろを得ぬ。』

と云はれ、吉屋信子女史は

『榮子様を恥を忍んで實家に種々の要求に行かせて遂に獨り死につくまで背後に傍觀した野口某は實に下等の男だと思ひます。榮子様は人間の人格の批判力のまだ備はらない幼年期に過失をなさつた、そして遂にその批判力を育くむ處女の教養時期を捨てゝおしまひなさつた。餘りに痛しく價値なき死を遊ばした、榮子様と共に年老いてあまりに不幸な濱田未亡人がお可愛想てなりません。』と云つて居られました。

ある母の感想

原田琴子

○

子供の心をどのやうに育てゝ行つたらよいだらうかと考へると怖ろしい。

子供がまだこの世の空氣を呼吸せずに私の血で養はれてゐた時分に私は、私が子供のために爲し得る最善は、自分の心身を健全にすることであると信じてゐた。そして適度の運動をとること、激勞せぬこと、多くの人の集まる空氣のきたない場所へ行かないこと、氣分を爽快にして讀書をすること、よく眠ることに留意した。が今二歳になる壯健な私の子供が片言交りに何か云ひながらとびはねてゐる姿を見ると何となくこわいやうに思ふ。この子供のためにどうつくしたらよいのであらう――それが私にははつきりと分らないからである。

可愛いゝさかりだと人は云ふ ほんとうに今私の子供は何物にもかへ難く可愛いゝ、よち／＼と歩み寄つて來て「お母ちやん」と覗きこむ眼ざし、口元、「きんととかくの」と云つて地べたへ坐りこんで棒きれを握つて何かを畫かうとしきりに努力してゐる様子、わけても後ろから見た體つき、頸すぢのあたりの愛らしさ、それを眺めた一瞬間の私の心は忽ち悦びに充される、母の本能的な悦

びが私の全心を包んでしまふ。然しそれは永くはつゞかない、射し込んで居た日光がふとかげるやうな具合に心が一轉換した次ぎの瞬間には私は暗い不安と恐れに襲はれる。

私の子供！　それが一つの生存物として今眼の前に活躍してゐる姿を見ることは、何といふ驚異であらう、神秘であらう。

ほんとうにこの子供の心をどのやうに導くことが子供自身のために最善なのであらうか？　左樣思つてみると私はつく〴〵自分の聰明でないことを恥ぢるばかりである。

○

私は子供を愛して居る、然しその愛の故に子供が私を尊敬するであらうとは信じ得られない。私は子供の時分母の本能的な深い愛をうけた、けれども物心ついてからの私はその母の愛を決して感謝しなかつた、まだ獨り歩きも許されない頃から私は母の態度や心持をいろ〳〵に批判してそして恐ろしい幻滅を味はねばならなかつた。私は私にだけ特にいふお菓子や果物なぞをさつておいてくれる母を決して有り難く思へなかつた、私とあまり年の違はない叔父達に對しても何故私にするのと同じ樣にしてやらないのだかが幼ない私にとつては限りない疑問であつた。母に對する私の尊敬の念は消え失せた、そして私の生涯の憂欝の芽がそこから養はれたのであつた。

この私自身の經驗から私は私の子供に對する特殊な愛、母らしい本能的な愛情をともすれば危險

に思ふ。子供はその母からただ盲目的に愛されるからといつて決して母を尊敬するものではない、母の愛の中に正義と公平を見出した時にのみその母を敬ひもし懐かしみもするであらう。
子供のためによき母となるためにはまづ自分自身がよく正しくなければならない、自分の生活にやましい點があつてはならない、私はさう思ふ。

○

私は子供を限りなくいとしく思ふ、私の心は片時も子供から離れてゐない、子供を置いて外出した時でも、子供の眠つてゐる間にでも。
この私の心持が子供の成人した後までもながくつづくものであらうと思ふと、私は私の愛が却て子供の心を束縛することになりはしないかと恐れずに居られない。
子供は私の未來である、未來はよりよくなくてはならない、未來は過去に羈絆することなしに無限の空間に飛躍すべきものである。私は決して子供の自由を妨げてはならない、いつの日にか子供は私をすてゝ去るであらう、たとひ私がどんなに賢こいよい母であらうとも。それは恐らく自然の運命であるに違ひない。
私は私の母が考へたやうに私の子供を自分の手もとにひきとめて置かうとはすまい、道德的な奉仕を强いもすまい、私は一個の人格者としての子供の自由を尊重しよう。けれども子供が自分から

當然離れて行くものであると考へることは寂しい。私はそこに親の心の辛さをしみ〴〵と思ふ。

○

私は女學校の家事科で育兒といふことを教へられた、然しそれは今自分の子供を育てる場合に當つてそれほど役に立つとも思はれない。私達の教へられたのは子供の體に關することばかりでその心をいかに育てゝ行くべきかといふ事については一向聞かされるところがなかつた、そして私の今一番考へねばならぬ必要を感じるのは子供の身體についてよりも、精神に關することの方がより多い。實際子供をいつお湯に入れようかとか、玩具の選擇とか、乳の飮ませ方とかいふやうな事は、その場になれば常識で分ることである。また風邪を引いた時には湯氣を立てゝ室内の空氣を乾燥させぬやうにするとか、少し下痢をした時は食物を減して、おなかを冷さぬやうに眞綿でも卷いてやるとかいふ樣な事は經驗のある人にでも聞けばすぐ分ることで、まだ十六七の少女が學校の教室で事々しく先生の説明を聞かずともの事ではなかつたらうか——と私は思ふ。事實その當時私は——私達生徒は、試驗によい點をとりたいためでかりにそんな玩具の選擇法とか云ふことを何の興味もなしに頭へ詰め込まうと努力したものであつた、そして試驗がすむと同時に大抵は忘れてしまつたものである。育兒についてばかりではない、修身といふ課目でも私達は教科書をただうのみに暗記した。試驗によい成績を得たいためばかりに。

女學校に居た頃なぜもつと根本的な、精神的な訓練を受けなかつたであらう―と私は子供を育てるやうになつてから殊に感じることが深い。

私達の受けた女學校の敎育といふものは、男子の中學校と較べては情なくなる程低い程度のものであつた。殊に數學とか語學とか漢文とかいふ科目は。私は學生時代に於てもそれを限りなく遺憾に思つてゐた。今でも同じことである。けれども今私が自分の子供をじつとみつめた場合に、心の奥底から不安に思ふのは、決して母としての私の知識の淺薄であるといふことではない、子供が中學校にまで進んだ場合にその勉強を手傳つてやるほどの力が自分に無いといふことではない。知識上の手傳ひなら母を待たずともものことである。子供の個性を誤りなく見拔いてそれを充分に成長させるために最善の指導をすること――そのためには何者をも、何事をも頑惑しないだけの自信と勇氣を把持すること――私はそれを母の最も重い任務であると思ふ、そしてそこから他人の犯し得ない母の權威が生れ出づるのだと思ふ。今私が自分自身に對して不安に思ふのは何よりもその點についてである。

○

私の子供はまだ一歳と七ヶ月にしかならない、それでもローマ字を覺える、Sと書いて發音を敎へる、すると今度繪葉書なぞに書いてあるローマ字の中のSを指してエス、エスと讀んで喜んで居

る。この調子では　學校へ入らない中にいくらも文字を讀めるやうになる事だらうと、親馬鹿の私は思ふ。そして私は大勢の兒童を集めて劃一教育をする小學校へ子供を託すことに甚だしい危惧を感ぜずに居られなくなつてくる。私自身の經驗からしても小學校及び女學校の規則づめの勉強は無意味なものであつた。私は小學校ではいつの時間にも大抵机の下でいたづらをしたり、前の人の姿を寫生したり、隣席の人と手紙をやりとりしたりして遊んでゐた。先生の說明なぞはきいてゐなかつた。なにあとで一寸本を讀めばすぐ分ることだ――いつもかうのんきに考へてゐた。（尤も算術の問題を計算する時とか、習字や圖畫や手工なぞの時間には左樣ではなかつたけれど）私には課業時間がただ退屈で〳〵ならなかつた。女學校では大抵の時間には私は居眠りをしてゐた。如何しても先生の講義をじつと聽いてゐる我慢が出來なかつた。然しさう〳〵眠つてみせるのも先生に對してすまないやうなので、時には講義の間にエーエーといふ先生の癖が一時間にいくつ位あるものか數へてみようとして眠けざましに帳面へ書きとつたり、下手に先生の身振りを寫生してみたり、そんなことで貴重な時間を過し〳〵した。ほんとうに私は不良少女だつた。だがその時の私にはそれが極めて自然な當然な事であつた。先生の講義は一向面白くないのだし、あとで本を讀めば分る事であるし、知れない字は辭書を引けばすぐ分るのだし、そして試驗にはただ教科書を暗記すればいゝ點がとれるのであつたから。

私はその自分の經驗をどうかして子供にはさせたくないと思ふ、死物を扱ふやうな教育をうけさせたくないと思ふ。私の子供は晴々とした大空の下に、かがやく太陽の光をあびて生きてゐるのだから。

夫と共同してラヂアムを發見したキューリー夫人は米國婦人の招待を受けて去る五月十一日米國へ來ました。キューリー夫人はポーランドで生れ、ワーソーで學問をし、後には巴里で研究をしました。そして、夫婦共力してラヂユムを發見したのです。一九〇六年に夫が死んだ後は、ソルボンヌ大學の物理學の教授として、又、物理學研究所の所長として、夫の後を繼いだのです。そして、一九一一年には化學に對する貢獻者として、ノーベル賞を受けました。

キューリー夫人を招待した米國婦人は百萬圓以上の金をつくつてラヂユムを一グラム買ひ、大統領ハーテングを通じてキューリー夫人に獻上しました。

私共は常に米國婦人の遊惰な生活を非難してゐますが、併し、此の場合の米國婦人の金の使ひ方は敬服に價すると思ひます。

教育社會學（第六回）

言葉の交通

交通の形式はいろ〱ありますが、其のうちで最も重要なる位置を占めて居るものは言葉であります。そして、此の言葉には必ず概念的の考へが含んでゐますので、これが、人間と他の動物とをはつきり區別させてゐるのです。ジャッド博士は云ひます。『人間は言語の世界に生活してゐる。他人を感化するやうに言語を用ゆる人々に社會は感謝する。言語のうちに現はされた思想の聯合がものを變化させる。私共が犬と云ふ言葉を口にした時に、又は、其の言葉を聞かされた時に、其れに對する反動が私共の心に直ぐに起つて、そして、丁度、私共が犬を實際に見た時と同じやうな態度をとる。もし　私が平生犬を非常に恐れて居るなら、私の體中の筋肉は收縮して、そして逃げ出したいと云ふ氣持ちになる。併し、私が平生犬を好いて居るのなら、私の筋肉

はのびノ＼して、そして、氣持ちが愉快になる。であるから、言葉は繪の一部分ではなくて、行爲の一部分である。かくして、言葉に附着してゐる經驗の中には、ものに對する適當な感情の態度が含まれてゐる。』

又、ジューイ博士は『民主々義の敎育』と云ふ著作のうちに云つてゐます。

『言語は最大なる變化を經た社會生活の狀態を代表するものである故に、社會生活の他の道具と比較した時に、其の言語は最大なる役目をもつて活躍するのは當然である。人は言語によつて、過去の人間の經驗を知ることが出來る。そして、現在の經驗を廣く豐富にすることが出來る。我々は、又、言語と云ふしるしによつて、或ひは、又、想像によつて或る場合を豫想することが出來る。言語は社會的の或ることの結果を記錄したり、或ひは、或る見込みを簡明に現したりすることが出來る。實に、言語は人生に於ける最大價値あるものである。』

言語をしるしに現す術、則ち、書く術を持つと持たないとが文明人と野蠻人との區別をしてゐます。又、一枚の紙に書いた文章から何枚でもを造り出す印刷の術は世界

の隅々迄に文明を押し擴げ、そして、現代を抱へてゐます。十九世紀中に發明された
短時間に遠距離へ通信をする方法は全世界を一つにまとめてしまいました。そして、
一大革命を起そうとし、そして、其の革命は除々と進みつゝあります。其の結果を現
代の私共は、唯、ぼんやりと見ることが出來ます。文字を書くこと、及び、電氣を應
用しての通信がなかつたならば大規模の政治は不可能でありませう。ですから、學校
敎育の主要な點は言語を敎へると云ふことになつてゐます。書くことが發明されて以
來、敎ゆべき主なるものは實に、讀むことゝ書くことであつたのです。それから、又、
印刷術が發明されて以來、敎へるものゝうちで、讀むと云ふことが凡ての他のものを
壓倒してしまいました。で、ロッス博士は云ひます。

『思想を傳へる方法としては、口で一人々々に敎へてゐたものだが、印刷術の發達に
よつて讀むと云ふことに變つた。工場及び商店の監督は雇人に執務時間中の會話を禁
じる。そして、それ等が彼等の讀書癖となつて現れて、暇さへあれば讀書すると云ふ
ことになる。實に都市に住んでゐる大抵の人の心は蠶が桑で養はれてゐるやうに、新

聞紙で頭を養はれてゐる。日刊新聞が人々の意識の上へ、印象や思想や信仰を押しつけてゐる。丁度、印刷機械が無數の白紙の上を印刷して行くやうに。』

ジャッド博士は、又、云ひます。

『學校に於ける兒童は聞いたり、話したりする言葉よりも、讀む言葉が一番多い。であるから、見ることゝ考へることゝが同じになつてゐる。つまり、目と心がくッついてしまつてゐる。其の結果、自分の意見を述べるのに口で云ふよりも書くと云ふことになる。又、普通、學校では口で云ふよりも書く方を奬勵してゐる。であるから、子供にしろ、大人にしろ、唯、考へてゐたのではいつ迄も考へがまとまらなくても筆と紙を持てばどうにかまとまつて行くと云ふ場合がある。』

或る田舍に住んでゐた一人の娘が、田舍に住んでゐたとは思へない程世間が明るく、そして大學教育を受けた者と同じやうな廣い智識を持つてゐるので、だん〳〵調べた結果、其の娘は常に新聞雜誌や良書を讀んでゐたと云ふ事が分りました。其の上に其の娘は都に住んで多くの人と交際してゐる娘よりも、思索力に富んで居たと云ふこと

です。

けれども、同時に、通信が便利に、早くなつた結果は、地方的の小團體を分裂させると云ふ事實もあります。其の一例として、或る人の談話を擧げて見ます。

「私が學校へ通ふ時分には鐵道も何もなかつた。私達の遊びは、唯、學校の者同志で滿足してゐた。けれども、年が進むに從つて、ベースボールの選手が組織出來た時に、私共は外の學校の生徒と競爭がしたくなつた。そして、其の試合に付いての相談は郵便でするか、又は、馬に乘つてぢかに話しに行つたものだ。併し、大抵は馬を飛してゐた。其の方が遙かに早くことが定まるので。後に、電信や日刊新聞が其の土地に這入つて來てからは、學校と學校との通信は大變樂になつた。同時に、新聞を通じて我々は他所の選手がどう云ふやうな競爭をしたか、又、どんな風に練習したかを知ることが出來て、大いに參考になつた。

「けれども、其の後には妙な結果になつた。我々はベースボールのことを話したり聞いたりするために仲間に行き逢ふ必要はなくなつた。以前には選手の意氣を保つて置

くためにも走り廻る必要があつたのだ。けれども、其の時には、さう云ふ役を新聞が皆爲して呉れた。又、前の日のゲームの結果は一々新聞が報じて呉れた。處で、他の團體の名監督や名選手は新聞を通して我が小團體の有力な選手の心を搖り動かした。と云ふのは名監督や名選手は新聞紙上にまつ先きに大きく紹介される。彼等の目ざましい働きぶりを見た我が團體の選手は彼等のやうになつて見たいと云ふ慾望を起して、我が團體を去つて、名聲のある團體へ加つてしまつた。有力な其の選手が去つた後の我が團體はだん／＼弱くなつてツイには解散の止むなきに至つた。其の後、再び、組織されたけれども、到底、以前のやうに力強くなることは出來ないだらう。』と。

凡ての言語の術の中で、何と云つても會話が第一位を占めてゐます。少なくとも、ものを敎へる上に於て會話が最高の位置を占めてゐます。次の拔萃が其の事實を説明します。

『私共の割烹の會で主要なる機關は矢張り會話であつた。勿論、書いたもの、料理敎科書や使用書きを用ゆるが要するに其れは會話の御手傳ひで、何と云つても會話が主

であつた。會員達は他の割烹會で造つた使用書を參考に用ひたり、又は、他の會と絕へず通信したりしてゐた。私達の通信をする範圍はだん〳〵擴がつて行つて、多くの割烹の會と興味ある料理に付いての智識の交換をした。又、會員の母達が會へ出て來て料理の出來ばへを批評した。會員達自身はどんなのが最善な出來だか分らないので。「遠方に住む或る婦人が或る時、私共の割烹會のために一場の講演をし、そして、實驗迄して見せて吳れた。そして、其の後は手紙で其の婦人へ我々の成功の報告をしたり、又、料理に付いての注意を受けてゐた。其の婦人は私達に手紙を書く度每に私達の好きそうなものゝ料理の仕方を書き送つて吳れた。

「又、料理がある日の午前中は、殆んど、始終電話のベルは鳴り通しであつた。造るものに付いての打ち合せやら、材料の選擇に付いての相談やらで。」

實に、私共の生活に言語がどの位ひ重要なものであるかは云ふ迄もないことですが、其の言語の活躍を助けるに電話の役目も大したものです。手紙では二日も三日もかゝるものを電話では速座に用がたりてしまいます。

言語以外の通信

前述の拔萃のうちにあつた實驗と云ふことは言葉以外の通信として甚だ重用な形式であります。實驗を目擊すると云ふことは通信の凡ての形式中、重要な位置を占めてゐます。敎育は實驗とことを共にすると云ふ處にあるのです。初等敎育、及び、手工、自然科學は實驗とことを共にすると云ふ方法によつてゐます。

言葉以外の目に依るしるしの組織、又は、耳に依るひゞき組織があります。敎室に於て、もし、敎師が秩序を重んじ、針の落ちる音でも聞へるやうな靜肅を要求するならば、生徒は、自然、無聲の通信を巧みにするやうになります。そう云ふ敎室に置かれてゐる生徒達は、放課後の遊びの種類に付いて友達同志、聲を立てずに、つまり言葉を用ひずにうまく通信し合ひます。たとへば、縫ひ物をしようと云ふ通信をしようと思へば、ものを縫ふように體を動かすとか、何にかの競爭をしようと云はうとするなら、其れをするやうに机の上で指を動かすとかして。勿論、此の種類の通信には

手つき、顔つき、唇つきと云ふ助手が必要です。

繪畫や其の他の藝術品は、もし、見る人が其の態度でありさへすれば、必ず、其の藝術品が持つてゐる使命、則ち、其の創作者からの通信を受けることが出來ます。其れに付いてクーレー博士は申ます。

『文學のやうな藝術は、いはゞ、思想の外側の構造である。此の構造によつて、人は、一家族、一階級、又は、一國家の一會員であることを悟るのみならず、猶又我々が知らず〳〵のうちに取り入れてゐる思想の創造者なる歴史以前の人間をも含めた大きな團體の一員で自分があることを知るが、これは、皆、通信のおかげである。』と。

人間の造つたもの、殊に、藝術品は其の創造者の生活を表現したもので、そして、同時に、其の藝術品は其の人格を他人に通信する仲介者であります。

編輯の後

專修大學の專務理事櫻井義肇氏は七月八日突然死去されました。氏は明治廿年に同大學にお這入りになり以來今日に至る迄三十年間、本當に寢食を忘れて學校のためにお盡しになりました。敎育界に殆んど一生をお捧げになつた方です。けれども、社會のためには害こそ殘せ、何にもなつてゐないもの丶死に付いては十日も十五日もの間紙面の澤山をさいてゐる新聞が、此の有益な方の死に付いては、大抵の人は見落すやうな處へ僅かに五六行書いておしまいです。新聞は社會の鏡であると云ひますが、あんまり、曲がつた鏡だと思ひます。

本當に不順な氣候で、皆樣の御健康をかげながら氣遣ひます。一昨日は寒くて羽織やシャツを出す騒ぎでしたのに昨日今日は、又、非常な暑さで、其の上に大風がゴー〱吹いて、折角育ちきつた桐の葉がちぎれてしまいそうで痛ましくて仕方がありません。

痛ましいと云へば、ツイ五六日前でした。もう、咲くばつかりに松葉のやうな花瓣を揃へてゐる松葉菊が何日も〱の雨續きで太陽の光線の接吻がないために開くことが出來ないでゐました。もう、二三日も雨が續いたなら、此の花はとう〱開く機會を持たずに朽ち果て丶しまうであらうに、と思ひながら私は頭を伏せてペンを動してゐました。ペンを動してゐた時間はどの位ひであつたかはつきりしませんが、不圖、頭を上げて見ると、無數の花のうちの一ツの花が風もないのにユラ〱と動いてゐます。不思議に思つてよく見ると、體中に毛を生やした大きな毛虫が其の花の花瓣の根元の方をモソモソと食べて居るのでした。春に逢ふ機會のなかつた憐れな處女を狒々が捕へて、さいなむでゐるかたちです。私はゾッとしました。けれども、勿論捨て丶は置けないので箸を持つて來て、勇氣を揮つて花にしがみついてゐる其の毛虫を花から離しました。

其の翌日は靜かな晴天で凡てのものを蘇らす太陽の光線が温い接吻をあたふた其の花にふりかけるのですけれども、そして、外の花は皆誇らかに滿開の姿を見せたのですけれど昨日毛虫に犯された其の一ツのみは憐れにも、もう、開く生氣を失つてゐて其のま丶萎れてしまいました。此の地上には自然界にも、人間界にも、こう云ふ事實が至る處に散在してゐることを思ふ時、私は窒息させられるやうな氣持ちになります。そして、一時はさう云ふ事實のない世間へ逃げて行きたいやうな氣持ちになります。けれども、その卑怯を責める心がぢきに優勢になつて來てそして、眞のうちの一ツでも其の悲慘な事實を少なくすることが自分の力で出來るならば、さうしたいと云ふ氣になります。

婦人と新社會

自一號至十號　四六版六百五十頁

合本

總金字クロース入美本

定價貳圓五十錢

寄贈新刊

愛國婦人	七月號
婦人くらぶ	同
婦人界	同
婦人畫報	同
婦女新聞	每週
實生活	同
文化運動	同
住宅研究	同
新組織	同
月刊樂譜	同
女性同盟	同
女性日本人	同
婦人公論	同
越後タイムス	每週
科學智識	同
正教時報	同
坩堝	同
無名	同
丁酉倫理	同
世界の批判	同
婦人問題講演集	同
原始生命論	同
黎明期の婦人	同

本誌定價表

一册	六册	十二册
金二十五錢	前金金壹圓四十錢	前金金貳圓七十錢
送料五厘	（送料共）	（送料共）

本誌代及郵税は前金の事御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割增
■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十年七月二十三日印刷納本
大正十年八月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人　大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會
振替東京五三六八八